

「不登校児童生徒に対して多様な学習機会の確保のための経済的支援制度の確立を求める意見書」の採択を求める請願

令和4年9月1日

長野市議会議長  
寺沢 さゆり 様

請願者 (住所) [Redacted]  
代表者 高橋 有希 [Redacted]

紹介議員 東方みゆき

~~金沢 謙二~~ 柳田 隆雄 寺下 純一  
松井 英雄 小泉 洋正  
小泉 真一 小坂 史子  
佐藤 ス美子

請願趣旨

令和2年度の義務教育段階における不登校児童生徒数は全国で19万6,127人と7年連続で増加しており、長野県内でも約3,800人が不登校と、依然高水準で推移している。長野市教育委員会によると長野市においても小学校では201人、中学校では392人と年々増加している。

また不登校の定義となっている年間欠席30日以上条件に当てはまらないが、保護者や学校の配慮により出席扱いになっているなど事実上の不登校児童生徒数も鑑みると、文部科学省調査だけでは実態が把握しきれていないと言え、潜在的な不登校児童生徒も多数存在していると考えられる。

『令和4年度 第1回長野市総合教育会議』の資料によると、市の中間教室を利用している不登校児童生徒は定員60人程度のところ79人おり、加えて40から60件程の問い合わせや見学希望があるほど需要が高まっている。その一方で、フリースクール等の民間施設・団体の利用者も平成29年度から毎年増加しており、公的機関以外の多様な学び場の需要もまた高まってきていると考えてよい。

このような中、フリースクール等の民間施設を利用する際の家庭の実情を見ると、利用料月3万3千円程度(文科省調べ)という経済的負担に加え、身近に通う民間施設が無い場合には遠方への通学のための身体的、時間的、心理的負担も加味しなければならない。  
~~多様な学習機会を提供する民間施設への需要が高まっているのに対し、民間施設を設立するための経済的支援制度は一部の自治体が制定しているのに留まっており、必要な資金が確保できず設立を断念している個人や団体も少なくない。~~

以上のことから、現状では、教育機会確保法の基本理念2に明記される「不登校児童生徒が行う多様な学習活動の実情を踏まえ、個々の状況に応じた必要な支援」が果たされているとはいえない状態であり、早急な具体的対策を講じる必要があると考える。

よって国において、不登校支援の一部である多様な学習機会を確保するための具体的対策として、次の事項について強く要請する。

記

- 1 教育機会確保法制定に際し、衆議院文部科学委員会と参議院文部科学委員会がそれぞれ附帯決議した内容である「不登校の児童生徒が、いわゆるフリースクール等の学校以外の場において行う多様な学習活動に対しては、その負担の軽減のための経済的支援の在り方について検討し、その結果に基づき必要な財政上の措置を講ずること」を進めること。
- ~~2 いわゆるフリースクール等民間施設の設立及び運営補助金等の経済的支援制度の確立を講ずること。~~

請願事項

「不登校児童生徒に対して多様な学習機会の確保のための経済的支援制度の確立を求める意見書」を採択し、政府・関係省庁へ意見書を提出してください。